

教 育 研 究 業 績

2022年 5月 1日

氏名: 上原 紗綾子

学位: 博士 (言語学)

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
言語学	音韻論・音声学、社会言語学、Language Acquisition、Word Segmentation	
主要担当授業科目	Advanced English Conversation 1、English Presentation 2、ビジネス英語 1、観光英語、 English Business Presentation、English Discussion	
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1) マルチメディア機器と学習管理ツールの活用	2013年8月 ～2021年6月	授業用のMicrosoft Office (パワーポイント、ワード、エクセル)、Google Drive の活用、D2L, Blackboard や Sakai の学習管理システムを活用することで課題討論と学生評価記録の管理体制を構築した。
2) 音声分析用ソフトウェアを用いた発音矯正、リスニング上達のための指導	2014年8月 ～2014年12月	Praat (音声分析ソフト) を活用した教授法で成果を上げることができた。対象は発音矯正を希望する日本語を学ぶ (主に英語話者・中国語話者) の学生。学生に和文の発声を録音させ、Praat で音調と子音と母音の長さを学生と確認しながら矯正練習の指導を実施。また、PsychoPy (心理学実験用ソフトウェア) を使い、促音と直音のリスニングアプリケーションを作成し学生に活用させることで効果を上げることができた。
3) インターネット・オンライン授業運営	2020年3月 ～2021年6月	2020年度の春・秋学期はZoomをフル活用し、コロナ禍におけるオンライン授業運営方法に工夫を加え、対面授業では得られないレッスン効果も上げることができた。
4) 言語学部の論文指導	2018年1月 ～2018年6月	ミシガン州立大学では社会言語学ラボのリサーチ・アシスタントとして学部生3人の論文作成と研究指導を担当。仮説の立て方から、実験の設計、論文の書き方と論文完成までの指導を行った。学期末には大学内のリサーチフォーラムで発表させ、高い評価を得た。(至2018年5月)
2 作成した教科書、教材		
1) ESL教材の作成	2011年1月	ニューヨーク大学 American Language Institute インターンとして中級ESL教材の作成を担当した。
2) 語彙・文法の手引き書作成 (活支援対策)	2019年10月	インディアナジャパンキャリアフェアで日系企業の面接にエントリーを希望した日本語初級学生に敬語 (尊敬語・謙譲語) を教えるための超短期集中講座用の手引書を作成した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
	2014年6月 ～8月	北海道国際交流センター(HIF)にて開講された日本語日本文化講座夏期セミナーの「A組 (初中級日本語)」コースフィードバック履修者12名中12名(100%)に対しアンケートを実施したところ、全体的に高い評価を得ることができた。「Uehara sensei is kind, enthusiastic and goes the extra mile in helping her students succeed.」という意見や「It was very impressive to see our sensei keep employing new tactics and strategies to keep us engaged as the semester went on.」というコメントを得た。
	2015年6月 ～8月	北海道国際交流センター(HIF)にて開講された日本語日本文化講座夏期セミナーの「A組 (初中級日本語)」コースフィードバック履修者12名中12名(100%)に対しアンケートを実施したところ、全体的に高評価を得ることができた。「Uehara-sensei really did a wonderful job teaching. She was very approachable and answered all questions.」というコメントや「[Sensei was] very patient and gave clear instructions.」という感想を得た。
	2016年6月 ～8月	北海道国際交流センター(HIF)にて開講された日本語日本文化講座夏期セミナーの「B組 (中級日本語)」コースフィードバック履修者11名中11名(100%)に対しアンケートを実施したところ、全体的に高評価を得ることができた。「My sensei was absolutely wonderful. She made learning so much fun, and even when we had a heavy workload, she spread positive energy. You could tell she really cares about her students. She also included cultural material so the class was never too book heavy. It was balanced.」というコメントを得た。

	<p>2018年8月～12月</p> <p>2019年1月～5月</p> <p>2019年8月～12月</p> <p>2020年1月～5月</p> <p>2020年8月～11月</p> <p>2021年1月～5月</p>	<p>University of Notre Dame (アメリカ合衆国ノートルダム大学) にて開講された「First-Year Japanese I (初級日本語)」のコースフィードバック 履修者15名中14名(93%)に対しアンケートを実施したところ、全体的に高評価を得ることができた。「Uehara Sensei was a great professor in that she was able to help break down complicated concepts and vocabulary in a way that made sense for us without it becoming overwhelming and unengaging. She always made class fun, and facilitated stress free class participation - even if we weren't sure how to say something, we still tried without fear of reprimand but rather constructive criticism which helped us learn a lot. 」という感想を得た。</p> <p>University of Notre Dame (アメリカ合衆国ノートルダム大学) にて開講された「Elementary Japanese I (初級日本語)」のコースフィードバック 履修者17名中16名(94%)に対しアンケートを実施したところ、全体的に高評価を得ることができた。「Makes the class really fun and interactive. Gives good feedback and is willing to work with students on their weaknesses. After I did poorly on an exam, she worked with me and I was able to come back and remain in the course. 」というコメントを得た。</p> <p>University of Notre Dame (アメリカ合衆国ノートルダム大学) にて開講された「Third-Year Japanese (中級日本語)」のコースフィードバック 履修者10名中7名(70%)に対しアンケートを実施したところ、全体的に高評価を得ることができた。「Homeworks, although there were many, were very helpful in increasing my knowledge and fluency in Japanese. I particularly like how there is a presentation project at the end of the class. 」という意見や「 Professor Uehara is excellent at getting the students to be engaged in the class, and gets them talking which is important for language development. 」という感想を得た。</p> <p>University of Notre Dame (アメリカ合衆国ノートルダム大学) にて開講された「Second-Year Japanese II (初中級日本語)」のコースフィードバック 履修者17名中12名(70%)に対しアンケートを実施したところ、全体的に高評価を得ることができた。「I found that the PowerPoints were extremely helpful as sometimes the textbook readings can be an overload of information. 」という意見や「Very approachable and easy to talk to. Makes content easier to understand and is straightforward. 」というコメントを得た。</p> <p>University of Notre Dame (アメリカ合衆国ノートルダム大学) にて開講された「Fourth-Year Japanese I(日本語中上級)」のコースフィードバック 履修者6名中5名(83%)に対しアンケートを実施したところ、全体的に高評価を得ることができた。「All of the homework and classwork contributed to my learning of the language, and the readings were usually pretty interesting and relevant. 」という意見や「 Very down to earth and fun to work with, making the classroom an environment where learning comes more easily. 」というコメントを得た。</p> <p>University of Notre Dame (アメリカ合衆国ノートルダム大学) にて開講された「Third-Year Japanese II」のコースフィードバック 履修者5名中4名(80%)に対しアンケートを実施したところ、全体的に高評価を得ることができた。「Time was efficiently distributed and all assignments were relevant to gaining a broader mastery over the language. 」という意見や「Uehara is the best Japanese teacher I have ever had. She is engaging, knowledgeable, and an incredibly efficient communicator. She's passionate about the material and is knowledgeable about contemporary Japanese culture which she brings into class. I have nothing but good things to say and wish I could take more classes with Uehara Sensei. 」というコメントを得た。</p>
<p>4 実務の経験を有する者についての特記事項 1) Michigan Japanese Quiz Bowl 助手審判員</p>	<p>2013年3月</p>	<p>ミシガン州内中・高校生向け日本語クイズ大会審判員の助手を務めた。</p>

2) 21st Mid-Continental Phonetics and Phonology Conference 組織委員会委員	2016年9月	ミシガン州立大学大学院言語学研究科主催による第21回ミッドコンチネンタル音声学音韻論学会大会の組織委員会委員を務めた。
3) MSU Phonology and Phonetics Group ウェブマスター	2017年1月	ミシガン州立大学音韻論音声学グループのウェブ・機材・ラボ管理を行った。
4) MSU Sociolinguistics Lab ミシガン州立大学社会言語学クラブ - ウェブマスター	2018年4月	ミシガン州立大学社会言語学クラブのウェブ・機材・ラボ管理を行った。
5) 言語学専攻のメンター	2018年9月	ミシガン州立大学学士課程の学生を対象とした社会言語学研究のメンターを務めた。研究指導、学会発表準備指導など。
6) R 言語統計解析トレーニング会組織委員会委員	2018年10月	ミシガン州立大学大学院言語学研究科主催「R 言語統計解析トレーニング会 (R Statistics Bootcamp at MSU)」の組織委員会委員を務めた。
5 その他		

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項

事項	年月日	概要
1 資格, 免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) ノートルダム大学人文社会学部東アジア言語・文化学科 助教	2018年8月～2021年6月	初級・中級・上級、全レベルの日本語科目を担当し、大学業務に携わった。
2) 採用人事選考委員会委員	2018年9月～2019年4月	ノートルダム大学人文社会学部東アジア言語・文化学科日本語講師採用人事選考委員会の委員として書類選考・面接等を担当した。
3) 海外留学委員会委員 (Study Abroad Committee)	2018年9月～2021年6月	ノートルダム大学人文社会学部東アジア言語・文化学科の海外留学委員会委員を務めた。
4) The Liu Institute for Asia and Asian Studies, University of Notre Dame 研究員 (兼担)	2019年10月～2021年6月	アジア地域に関わる研究資料収集や研究者間の交流に努めた。
4 その他		

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
1 Japanese and English speakers are not sensitive to the Sonority Sequencing Principle in word segmentation.	共著	2016年6月	言語科学会 Proceedings (JLSL2016, Conference Handbook)	Uehara, S., Durvasula, K. & Lin, Y.-H. (Uehara 担当部分: すべて) 英語母語話者を対象とする先行研究では連続音声中の単語分割 (word segmentation) で「聞こえ度配列法則」(Sonority Sequencing Principle: SSP) が単語を抽出する能力として使われると報告されている。それに基づいて、本研究では日本語母語話者を対象に調査を行なった。SSP は言語普遍的な法則であり言語特有の知識ではないことから、日本語話者にも SSP の効果があると思われるかもしれないが、分析結果として、SSP は単語分節化の判断基準にならないことがわかった。本来 SSP は音節に関する法則であり、単語単位の法則ではないので単語分節化の判断基準にならないことが結論づけられた。

<p>2 Phonology Modulates the illusory vowels in perceptual illusions: Evidence from Mandarin and English.</p>	<p>共著</p>	<p>2018年4月</p>	<p>Laboratory Phonology: Journal of the Association for Laboratory Phonology 9(1): 7</p>	<p>Durvasula, K., Huang, H.-H., Uehara, S., Luo, Q. & Lin, Y.-H. (Ueharaの担当割合:約20%) 本研究は、幻の母音の質に関する調査・分析を目的としている。幻の母音とは、各母国語の音素配列に基づかない発話系列を聞いた場合に知覚する母音であると先行研究で報告されている。例えば、日本語母語話者に[ebzo]という配列を聞かせると、[bz]という配列が日本語の音素配列に基づいていないので、[ebuzo]と知覚する可能性がある。そこで本研究ではこの母音の質、つまり具体的にどの母音が挿入されるかを問い、どのような音素配列コンテキストで幻の母音が報告されるかを調べた結果、音素配列によって母音の種類が変わり、音韻体系の影響があることを明らかにした。</p>
<p>3 Progressive outliers in listener perception of sound change.</p>	<p>共著</p>	<p>2018年12月</p>	<p>University of Pennsylvania Working Papers in Linguistics: Selected Papers from NAW 46 24(2).</p>	<p>Uehara, S. & Wagner, S. E. (Uehara 担当部分:すべて) 本研究はアメリカ・ミシガン州における進行中の母音推移に基づく研究であり、地域住民の音声知覚の調査を目的としている。先行研究では五大湖南岸の大都市で母音推移が生じていると報告されており、この現象は Northern Cities Vowel Shift と呼ばれている。本研究では母音推移の一部、/ε/に焦点をあて、進行性 progressive /ε/ outlier とその反対のポジションにある従来の traditional /ε/ outlier の聞こえ方を比較分析した。その結果、地元住民リスナーは進行性 /ε/ outlier の方をより重視して知覚したことが判明した。これは個々のスピーカーの母音位置を判断する場合、traditional vowel outlier より progressive vowel outlier の方に比重を置くバイアスがあることを意味する。</p>
<p>4 Word Segmentation for Japanese and English speakers: language-independent and language-dependent cues. (博士論文)</p>	<p>単著</p>	<p>2019年5月</p>	<p>ProQuest LLC, Ann Arbor, MI, USA.</p>	<p>Uehara, S. 先行研究では「言語特有の知識」と「経験から独立した言語特有でない知識」の両者とも連続音声の中の単語分割(word segmentation)で単語を抽出する能力として使われるが、本研究ではこの論点を踏まえ、単語分割の二つの抽出能力としての知識を比較分析した。「言語特有の知識」として長子音を応用し、「言語特有でない知識」として「聞こえ度配列法則」(Sonority Sequencing Principle: SSP)を適用することで、日本語母語話者と英語母語話者による単語分割を比較した。人工言語を用いた習得実験の結果、SSPは両言語話者の単語分節化の判断基準になっていないことが判明した一方、長子音は連続音声単語に区切る為の重要な手がかりになっている。以上の分析結果から、本研究では「言語特有の知識」の方が「言語特有でない知識」よりも単語分割に効果があることを明らかにした。</p>
<p>(その他) 学会発表</p>				
<p>1 Japanese and English speakers are not sensitive to the Sonority Sequencing Principle in Word segmentation.</p>	<p>共著</p>	<p>2016年6月</p>	<p>言語科学会 (JLS2016 年次国際大会) 於東京大学駒場キャンパス</p>	<p>Uehara, S., Durvasula, K. & Lin, Y.-H. (Uehara 担当部分:すべて)</p>
<p>2 Phonology Modulates the Illusory Vowels in Perceptual Illusions.</p>	<p>共著</p>	<p>2016年7月</p>	<p>LabPhon 15, Cornell University,</p>	<p>Durvasula, K., Huang, H.-H., Uehara, S., Luo, Q. & Lin, Y.-H. (Uehara 担当部分:理論、統計分析)</p>

		2016年9月	USA. 21st Mid-Continental Phonetics & Phonology Conference, East Lansing, MI, USA.	Uehara, S., Durvasula, K. & Lin, Y.-H. (Uehara 担当部分 : すべて)
		2016年2月	Cognitive Science Program, Poster Session, East Lansing, MI, USA	Uehara, S., Durvasula, K. & Lin, Y.-H. (Uehara 担当部分 : すべて)
		2017年2月	Graduate Linguistics Expo at Michigan State. East Lansing, MI, USA.	Uehara, S.
		2017年8月	Methods in Dialectology 16. National Institute for Japanese Language and Linguistics. (於国立国語研 究所)	Uehara, S.
		2017年11月	New Ways of Analyzing Variation 46, University of Wisconsin-Madis on, USA.	Uehara, S. & Wagner, S. E (Uehara 担当部分 : すべて)
		2018年1月	Linguistic Society of America Annual Meeting, Salt Lake City, UT, USA.	Uehara, S. & Wagner, S. E (Uehara 担当部分 : すべて)
		2018年4月	Cognitive Science Of Communication Symposium. Michigan State University, USA.	Uehara, S., Durvasula, K. & Lin, Y.-H (Uehara 担当部分 : すべて)
		2018年6月	LabPhon 16, University of Lisbon, Lisbon, Portugal.	Uehara, S., Durvasula, K. & Lin, Y.-H (Uehara 担当部分 : すべて)

<p>3 There is no effect of the Sonority Sequencing Principle on word segmentation.</p>	<p>共著</p>			
<p>4 Japanese and English speakers are not sensitive to the Sonority Sequencing Principle in word segmentation.</p>	<p>共著</p>			
<p>5 Reexamining the role of the Sonority Sequencing Principle in word segmentation.</p>	<p>单著</p>			
<p>6 The role of vocalic outliers on the perception of sound change.</p>	<p>单著</p>			
<p>7 Progressive outliers in listener perception of sound change.</p>	<p>共著</p>			
<p>8 Outlier perception accuracy for a vowel undergoing language change in progress.</p>	<p>共著</p>			
<p>9 Perception of sound change in progress.</p>	<p>共著</p>			
<p>10 Word-learning with underrepresented geminates: An artificial language study.</p>	<p>共著</p>			